



神戸常盤大学

# キャンパスレポート



建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

[www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/](http://www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/)



## 学校法人玉田学園 創立百十周年記念式典

### 伝統を守り伝統を創る「これまで」を決めるのは「これから」

秋も深まり、随所に冬の気配を感じられるようになった平成30年11月30日(金)、学校法人玉田学園創立百十周年記念式典がホテルオークラ神戸にて執り行われました。

式典には旭次郎理事長をはじめとする学園の教職員200名以上が出席し、創立百十周年を祝福いたしました。

旭理事長からは、明治41年の私立家政女学校の開設に始まる本学園の成り立ちや、Public(公共性)・Pilot(先駆け)・Protest(抗議)からなる私学としての存在意義が示されました。また、「偉大な先人をはじめ、多くの方々の協力や理解のもと、列



旭理事長へ花束を添え想いの品を贈呈



旭次郎理事長

挙すればきりがないほどの様々な出来事を乗り越え、学園として百十周年を迎えることができたことを心より感謝致します。」との所感が述べられました。

続いて行われた永年勤続表彰では、中川千鶴神戸常盤女子高等学校教頭、瀬川和子神戸常盤大学教授(教育学部こども教育学科)を代表とする、永きに亘り学園に貢献された永年勤続者35名が表彰されました。さらに、神戸常盤女子高等学校の校長として、また、学校法人玉田学園理事長として深く学園の発展に寄与され、私学人として兵庫県私学総連合会の会長を務められるなど、数多くの功績を残された旭理事長に感謝と敬意を表し、教職員一同より想いの品をお贈りさせていただきました。



中川千鶴教頭と瀬川和子教授

学校法人玉田学園は皆様のご尽力もあり、無事に創立百十周年を迎え、このように式典を行うことができましたことを深く御礼申し上げます。今後とも、学園一丸となりまして、新たな発展のために邁進してまいります。



永年勤続表彰者

# ==== KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ 2018 ====

## 地域交流センター

2018年10月7日(日)、台風の影響も懸念されましたが、快晴の秋空のもと、『健康ふれあいフェスタ2018』を開催しました。2010年に、玉田学園が地域社会に貢献する学園として、地域の皆様との交流を深めたいとの思いから『TOKIWA健康フェア』が始まりました。昨年、地域の皆様とのつながりをより深め、楽しんでもらえるお祭りになるように『TOKIWA健康ふれあいフェスタ』と改称し、今では約1,500名の方が参加する一大イベントとなりました。また今年は玉田学園創立百十周年というメモリアルイヤーに加え、本学とネパールの友好が二十周年を迎えました。そこで、国際交流センターが中心となり、本学とネパールの交流の歩みをパネル展示し、また民族衣装であるサリーの試着サービス、屋台にてネパール料理の提供など、ネパールに関するプログラムも取り入れました。さらに、地域に在住しているネパール留学生を招いて発表をしてもらい、国際交流の側面からも地域の方とつながりを深められたのではないかと感じています。こうして例年にはな



本学のマスコットキャラクター「ときワン」



メインホール内の様子



医療検査学科の学生によるInbodyを用いての体組成測定



園児制作のおひなさま



口腔保健学科の学生による  
はみがき教室



屋台などが立ち並ぶメインストリート

い要素も含み、大盛況のうちに終了いたしました。お越しいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

第1回目の「健康フェア」から数えて9回目となる本行事ですが、毎年恒例の頸動脈エコー検査、体組成測定、血管年齢測定等の健康チェックやお口のはたらきチェック、健康相談ブース、子どもが楽しめる遊びスペースの他、例年人気のある「はり・きゅうで免

疫力アップ]、「アロマハンドマッサージ」、「理学療法士による体力測定」に加えて、今年は兵庫県栄養士会のご協力で、体験型の食育SAT(さっと)システムを使用して栄養指導も行いました。普段の食生活からわかりやすく、栄養士からアドバイスをもらえたということで来場者にも大好評でした。

アンケートでも、ご来場の皆様からの貴重なご意見や有難いお言葉を多数頂戴し、本フェスタのテーマである「元気 健康 つながる ひろがる」が達成できたのではないかと感じています。

今年は、長田区役所、長田警察署、長田消防署、兵庫県臨床検査技師会、兵庫県鍼灸師会、ときわ病院、いたやどクリニック、地域の福祉作業所、シスメックス、JR西日本あしん社会財団などの関係団体・企業に加え、新たに兵庫県立農業高等学校、兵庫県栄養士会、そして日本経済大学、JICA関西のご協力をいただきました。また、本学学生の中には授業の一環として参加した学生もあり、ボランティアや授業として参加した学生にとっても地域の方々とふれあう貴重な機会となりました。さらに神戸常盤女子高等学校生徒が多数ボランティアとして活躍し、ときわ幼稚園園児も微笑ましい作品で参加しました。

本フェスタの開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました全ての方々に、厚くお礼申し上げますと共に、地域の皆様に重ねて感謝申し上げます。



ネパール料理を提供



長田消防署による消防訓練



こども教育学科の学生による人形劇

## ネパール友好二十周年記念式典

国際交流センター長代理  
医療検査学科 教授 **鈴木 高史**



10月7日にネパール交流二十周年記念式典が開かれました。本学とネパールとの関係は、平成9年にさかのぼります。当初は本学同窓会とネパールのハチガンダ福祉協会との間で始まった交換研修生派遣制度を本学が引き継いできました。



同窓会会長による感謝状贈呈



旭理事長祝辞

記念式典にはライ先生をはじめとするハチガンダ福祉協会の方々が来日し、列席されました。また、旭理事長、濱田学長、上田前学長、岡部同窓会会長をはじめとした本学関係者、これまでの研修生の方々、ネパールの関係者など多数が列席されました。式典では、まず感謝状が岡部同窓会会長からハチガンダ福祉協会に贈呈されました。それに引き続き、友好二十周年を記念して、本学からは旭理事長、濱田学長、小野特命教授からご祝辞を、ネパール側からはライ先生からご祝辞をいただきました。日本とネパール双方からの記念品の贈呈もあり、式典は終始、お互いへの感謝の気持ちの中で執り行われました。

今回の式典は、本学とネパールの20年の友好関係が多くのの方々の不断的努力で続いてきたということ改めて認識するとともに、友好関係を未来へとつなげていく思いを新たにする機会となりました。



ライ先生による記念品贈呈

# 実習体験記



看護学科4年  
溝上 葉月

## 課題別総合実習を終えて

課題別総合実習は、実習する看護領域を自ら選択し、自己の課題解決や看護観を深めるために主体的に臨みます。私は、母性看護学領域の「母親役割獲得過程を促進する看護」というテーマで、分娩期から産褥・新生児期にある母子を受け持ち、看護をしました。出産後に母親は、自らの体験を振り返り、出産体験を意味付け、自己概念を再構築します。母親は日々育児の中で、立ち止まって整理する場を設けることで改めて分娩を乗り越えたことへの自信を得て、母親役割獲得が促進されます。看護者として出産体験を援助し、妊娠・分娩・産褥・育児期での母親の心理変化を知ること、それぞれの母親役割獲得過程を学ぶことができました。私は、この実習を終えて、対象が周囲のサポートや社会支援を受けながら、健やかに子育てできるように支援したいと考え、助産師になるために大学院への進学を決めました。来年から、より専門的に母性看護学、助産学を学ぶことがとても楽しみです。



看護学科2年  
泉 なぎさ

## 基礎看護学実習を終えて

私が受け持ったAさんは右下肢蜂窩織炎で、脳梗塞後の右側麻痺がありました。Aさんは痛みなどが感じにくく、右下肢の傷や腫れに気づくことができない様子でした。右下肢の炎症が治まり、退院が決まったAさんに私は再度蜂窩織炎にならない予防策が必要と考え、日頃の生活についてさらに情報収集を行い、Aさんに対応した個別指導案を作成しました。指導後「私のためにこんなに考えてくれてありがとう」というお言葉を聞いて、今まで様々なケアを入院中に行ってきたが、ようやくAさんの看護ができた気がしてうれしく感じました。看護とは、今まで学んできた看護技術をただ提供し、『入院生活の援助』を行うだけでなく、その人の退院後の姿を想像し、『生活全体の援助』として入院中から関わっていくことが大切であると学ぶことができました。



こども教育学科2年  
新保 ひかり

## 基礎研究演習Ⅱ(小学校)実習を終えて

基礎研究演習Ⅱの実習で、スクールサポーターとして小学校に行くのは週に一度だけですが、子どもたちは毎週私が来ることを楽しみに待っていてくれます。それはとても嬉しく、また子どもに好かれる先生に近づけているという実感にも繋がります。私が実際に小学校に行って学んでいることは、授業の展開方法や黒板の書き方、小学校での子どもたちの生活の様子などたくさんあります。その中でも先生の話し方や声量、目線、クラスのとめ方、褒め方、叱り方といった子どもの心の掴み方に感銘を受けます。まとまりのあるクラスの先生は、それらもとてもバランスよく、使い分けておられます。私にはまだまだ足りない技術、力量ですが、クラス運営では重要なことです。2年生後期からは、インターンシップAの科目で、引き続き同じ小学校に赴いています。3年生で行う教育実習や将来クラス担任としても活かすことのできる知識や経験、技術や力量を身につけていきたいと思っています。



口腔保健学科3年  
栗林 侖奈

## 臨地実習を終えて

約10ヶ月間の実習が終わり、達成感で満ち溢れています。2年生の後期から始まった臨地実習。初めはただがむしゃらに毎日を過ごしていました。その中で知識、技術だけでなく、挨拶や報告・連絡・相談など、社会人として大切なことが欠けていることを知り、自らの至らなさを痛感しました。しかし、そこから成長できたのは、帰学指導でクラスメイトたちと反省点や褒められた点を共有し、改善点を考えることを何度も繰り返したからだと思います。また、求められることに応えるだけでなく、自分から情報を得ようとして、より良い実習にしようとする前向きな姿勢になることで、積極性や歯科衛生士としての知識、態度が身についたように感じました。その他にも学んだことは沢山あります。家族、友人、先生など、周りで支えてくれる人のありがたさです。仲間との絆や先生方との信頼関係を築きつつ、国家試験も無事乗り越えて、患者さんに寄り添える歯科衛生士になれるように頑張ります。



看護学科通信制課程2年  
上田 真美

## 臨地実習を終えて

臨地実習では、患者さんがどんな不安や心配を抱えて入院されているのかという視点で援助場面を見学させていただきました。例えば、仕事や部下のことが気になって、入院どころではないとイライラしている患者さんや、「世話になっているのにわがままなんて言えない」と自分の意思やニーズを伝えられない患者さん、出産後自分の基本的欲求も満たされていないのに、母子同室が始まり不安でいっぱいのお母さんなど、様々な状況におかれた人々に出会い、患者さんが安心して治療に臨むためには、身体的苦痛の緩和だけでなく、精神的援助も重要であることを学びました。苦手意識のあった看護過程でしたが、実習を乗り越えてきた仲間達と一緒に患者さんや家族について考え、まとめていくうちに、徐々に考え方が身についたように思います。様々な方向から患者さんを捉え、心からありがとうと言ってもらえるような看護ができるよう学んだことを活かしていきたいと思っています。

# 海外研修

## ボストン

### 大学コンソーシアム 学生海外派遣プログラム

医療検査学科3年 川村 あやか



私たちはマサチューセッツ総合病院(MGH)といくつかの病院を見学させて頂きました。また検査機器などを開発している企業にも訪問しました。印象的だったことは、アメリカでは糖尿病患者が多いことから、ベッドサイドで簡単に検査が行えるPOCTに力を入れていることです。検査結果が出るまでの時間も短く、WiFi機能で医師にデータが送られ、診断や治療方針の決定が早く行えるなど、患者さんにメリットが多い検査が主流になっていました。今回の研修を通じ、アメリカと日本の社会全体の異なる点に改め

て気づき、現地だからこそ味わえる貴重な体験ができました。研修を終えて、改めてこれからも勉強にしっかり励もうと思いました。



マサチューセッツ総合病院にて



検査室見学

## ネパール

### 大学コンソーシアム 学生海外派遣プログラム

医療検査学科1年 小出 優希



私たちは首都カトマンズとポカラの2ヶ所を訪れ、水質調査と蚊の幼虫ボウフラの殺虫剤耐性実験を行いました。ネパールの検査技師を目指す学生さんたちと3つのグループに分かれ、街中の飲み水や生活用水、水道水等を集め、9種類の指標で水質を調査しました。大腸菌が検出された飲み水もあり、水道整備や水の保管環境が整っていないことがわかりました。またポカラで行った殺虫剤耐性実験では、ポカラのボウフラは殺虫剤耐性が強いことがわかりました。これはポカラが観光地のため、街に殺虫剤が

撒かれている可能性があると考えられました。研修を通して、普段出来ない実験と病院施設を訪問でき、またネパールの学生さんや現地の方と共に活動でき有意義な研修となりました。



現地での実験



ネパールの検査技師を目指す学生さんたちと

## フィリピン

### 大学コンソーシアム 学生海外派遣プログラム

看護学科3年 高見 美晴



私は、マニラにあるサンラザロ病院で4日間の研修を行い、成人病棟や小児科病棟、ICUなどさまざまな病棟を見学しました。成人病棟は、日本とは異なり、病室にカーテンやドアはなく、患者や付き添っている家族が病室内で協力しあって療養生活をしている様子を見学しました。小児科病棟では、フィリピンの看護学生とともに実際に看護計画を立て、看護を実践しました。また、日本国内での発生が報告されていない狂犬病についても学ぶことができました。さらに、フィリピンでは学校に通うことの出来ない

子どもが多くいることを聞き、貧困を目の当たりにし、今、学習できることのありがたさにも気がつきました。今回、フィリピンの研修に参加したことで、日本とは異なった医療や看護を学ぶことができました。この経験を今後活かしていきたいです。



小児集中治療室(PICU)にて



指導ナースと修了証書

## ハワイ

### 3年選択科目・海外研修

口腔保健学科3年 木村 美月



私たちは、マウイカレッジで現地の学生と講義を受け、クリニック見学を行い、また患者役として、実際に歯科衛生士業務を体験させていただきました。その他にも、市場調査を行い、アメリカの歯科用品について学びました。見学や業務体験をさせていただくことで、アメリカの感染予防対策が徹底されていることがわかりました。また、業務内容の違いを知るとともに、アメリカの歯科衛生士の自律性や責任の大きさを感じました。その上、歯科用品は日本に比べて膨大な種類があり、歯科予防への意識が高いこともわかりました。

今後、日本での歯科に対する意識を高めるために、アメリカのように、私たちが自律性をもって業務を行わなければならないと考えます。今回の貴重な体験や感じたことを今後活かしていきたいです。



マウイカレッジにて、スケーラーについての講義風景



授業後、現地の歯科衛生士学生と

# 小豆島プロジェクト

例年8月に実施している小豆島プロジェクトは、今年度から一部、授業科目『地域との協働B』となりました。小豆島プロジェクトは、地域交流、合宿をしながら、①学生が自分自身で学ぶ、②大学2～4年生がリーダーとなり、大学1年生および高校生をサポートすること(リーダー育成)をねらいとしたプロジェクトです。『地域との協働B』は、このうちのリーダーを育成する科目です。

今年度は全学科の2年生16名がリーダーとなり、4～7月にかけて、協力して共同生活を行うための企画、合宿中のグループ編成、さらに1年生への参加者募集を行い、8月にオリエンテーション、本番の合宿を実施しました。

4～7月の準備段階では、全体像が把握できず戸惑いながらも、少しずつ合宿で必要なことは何かを考え、リーダーとしての心構えを身につけていきました。8月のオリエンテーションでの大学1年生、高校生との打合せにより、よりリーダーとしての自覚ができたように感じました。



集合写真

## 第7回神戸常盤学術フォーラム

KTU研究開発推進センター長  
口腔保健学科 教授 **足立 了平**



10月13日(土)穏やかな秋の好日のなか、2018神戸常盤学術フォーラムが開催されました。今年で第7回を迎えるこのフォーラムは、大学・短期大学部によりやく定着してきた感があります。午前中の学科長推薦演題では4学科1課程から5演題の発表がありました。結局、午前・午後併せて口頭発表16題、ポスター発表29題の合計45題という過去最多の報告となり、活気にあふれた討議が日がな繰り広げられました。

本フォーラムではKTU研究開発推進センター、学術推進課を



研究ブランディングAチームによる報告

医療検査学科 講師 **澁谷 雪子**



合宿1日目は、姫路駅の集合、船の中でのグループ行動、小豆島に着いてからのうどん教室など、小豆島について学ぶ企画があり、夜には大学1年生、高校生との交流を深めるためのレクリエーションを実施しました。合宿2日目には、保健科学部は小豆島中央病院、口腔保健学科、こども教育学科は小豆島保健センター、草壁保育園で実習を行いました。合宿3日目は、地引網、昼食の準備、片づけをしながら、小豆島の方々との交流を行いました。

合宿中、2年生がリーダーとして考え、行動してみようとする姿があり、自分たちで、この合宿を盛り上げ、スムーズに進行しなければならないという意が見えました。『地域との協働B』を履修した2年生が、将来、社会人となった時に、この経験を活かし活躍してくれればと思います。また、小豆島の方々が、毎年、温かく学生を迎え、合宿に同行してくださる姿に触れ、小豆島合宿に参加した学生が何かを学び、将来に活かしてくれればと思います。



保育園実習風景



地域との協働体験

中心に図書館も加わり、毎年新しい企画を組んできました。今年の目玉は、何とんでも研究ブランディングAチームによるパネル報告と英語セッション(Infectious Diseases Session)でした。「研究ブランディング」は國崎准教授の軽妙な仕切りのもと、本学のブランドとなる教育研究プロジェクトが口頭とポスターによって紹介されました。また、英語セッションでは、座長である鈴木教授の流暢な英語に加えて、ネパールからの留学生であるJunu Raiさんを含めた参加者全員が英語で白熱した討論を展開するセッションとなりました。両セッションとも予想をはるかに超える多くの参加があり、今後も継続していきたい企画となりました。ご参加いただいた皆さんには心より御礼申し上げます。



英語によるセッション(ネパール留学生発表)



## ときわ幼稚園通信



神戸常盤大学附属  
ときわ幼稚園 教諭  
花崎 菜

2学期、子どもたちは楽しみにしている運動会に心と身体が向かいます。

年長組は運動会種目「竹馬にチャレンジ」を目指し、乗りこなせるまで根気よく取り組みました。帽子取りでは、「どうしたらたくさんの帽子が取れるかな・どうしたら取られないかな」をチームで話し合いました。

年中組は初めてリレーにチャレンジ。同じチームの友達にバトンを渡すこと、バトンを貰ってから走ることなど、遊びながらルールを体得していきました。同じチームの友達に「頑張れ!」と応援することで、チーム意識を高めました。

年少組はかけっこが大好き。最初はゴールまで力いっぱい走ることが難しかったです。年長組の友達がゴールで旗を持って待っていてくれるということから、少しずつ力いっぱい走ろうとする気持ちを育てました。

運動会当日は、子ども自身が「頑張ろう」という気持ちを持ち、友達と相談したり、試したり、力を合わせたりしながら競技や演技に取り組みました。また、保護者の方々の声援を受け、思い切り運動会を楽しむことができました。

大きな行事を乗り越え、充実感一杯の子どもの姿から、幼稚園教諭としての喜びと充実感を味わいました。



バトンタッチ(運動会に向けて)



## 口腔保健学科 同窓会開催

口腔保健学科5期生 西田 果麟



今年度学校法人玉田学園は創立百十周年、神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科は学科創立十周年を迎えました。この記念すべき年にあわせ、口腔保健学科では同窓会を設立し、2018年8月5日(日)に神戸常盤大学ハローホールにて第1回目の「口腔保健学科同窓会」を開催することができました。1期生から今年の春卒業した8期生までの全学年合同で行い、卒業生42名が参加しました。お世話になった先生方を来賓としてお招きし、3時間程度の短い時間でしたが、思い出話に花を咲かせとても楽しい時間になりました。また全学年合同で行

うことによって、在学中にはあまり関わることのできなかった先輩方や後輩達と交流することもでき、仕事についての情報交換をすることで良い刺激を受けることができました。今回は参加人数が少ない学年もありましたが、次回は今回より多くの卒業生に参加してもらい、より楽しく充実した会が開催できればと思います。



ハローホールにて

## クラブ活動結果報告

### 大会結果

#### バレーボール部

2018年度関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦

女子バレー部：5部 残留

男子バレー部：7部 残留



試合の様子



女子バレー部



男子バレー部

# 第52回 常盤祭



## 第52回 常盤祭を終えて

常盤祭実行委員長 こども教育学科2年 井上 篤志



10月27日・28日の両日「TOKIWA PRIME ～幸せ速達便～」をテーマに、第52回常盤祭を開催しました。神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学の学生は、日頃から勉学に励みつつ充実したキャンパスライフを楽しんでいます。今年度の常盤祭では、共に勉学に励む仲間や、日頃から支えてくださっている地域の皆さまへ、最良のおもてなし・プレゼントをお送りしたいと願いを込めました。常盤祭スタッフ一同は、先輩方の意思を継ぎ、各々の力を発揮するべく何度も打ち合わせを重ねました。ご来場された皆さま、ホッとする時間・空間の提供と、幸せな時間を共有したいスタッフの思いは届きましたでしょうか？ 私自身は、たくさんの方々と「幸せな時間」を共有できたと感じております。最後になりましたが、仲間に支えられながら常盤祭実行委員長という大役を、無事成し遂げることができましたことに感謝致します。また、第52回常盤祭にお越し頂いた皆さま、地域の皆さま、ご支援・ご協力を賜りました関係者の皆さま、心より感謝し、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



## モトロク紹介



「ときわんモトロク」は元町商店街六丁目のなかにある子育てひろばです。月曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで開室し、毎日子どもたちの元気いっぱいの声が響き渡るにぎやかなスペースになっています。幼稚園教諭や保育士資格を持つ保育アドバイザーのスタッフがいつも優しく見守っているので、初めて来室する方々も安心かつ気軽に子育てに関する悩み相談や情報交換ができる場所です。

また、本学教員が離乳食の作り方や歯みがき指導、親子体操など月に一度講座を開き、子育てに関するお役立ち情報を提供しています。その他、手遊びや音楽遊びから本学学生によるユニーク

なイベントまで企画内容も盛りだくさんです。さらに、七夕祭りやハロウィンの日には「GGDAY」と称して祖父母世代との交流にも取り組んでいます。

モトロクはこれからも子育てや孫育てを頑張るママ、パパ、おじいちゃん、おばあちゃんに寄り添いながら、「憩いの場」の提供を目指します。

